

2026年5月18日

福島県知事  
内堀 雅雄 様

日本共産党福島県議会議員団  
団 長 神山 悦子  
日本共産党伊達市議 近藤 眞一  
日本共産党桑折町議 斎藤 松夫  
// 川村 滋道  
福島県農民運動連合会  
会 長 根本 敬

## 降雹被害対策を求める緊急申し入れ

13日に県内を襲った降雹被害は広範囲に及びましたが、とりわけ県北地方は果樹を中心に重大な被害が発生しました。日本共産党は16日、岩渕友参院議員をはじめ党県議団、伊達市議が現地調査を行い被災農家から聞き取りを行いました。

桑折町伊達崎地区で桃とブドウを栽培する農家では、実すぐりを終えた桃畑がほぼ全滅状態でした。ブドウもビニールが掛かっている部分で被害が顕著に見られました。長い果物栽培の経験の中でも今回の被害は初めてだと肩を落とし「この先どうしていいか、先が見通せず頑張る気力が出ない」と話していました。果樹農家は高齢の世帯が多く、改植等新たな取り組みにも積極的になれない状況があります。樹体保護のためには出荷不可能でも実を付かせたまま消毒を繰り返すつらい作業が続きます。経費は今まで通りかかるが、収入が無い状態をいかに乗り切れるかと頭を抱えています。果物の産地・福島県を支えてきた農家が見舞われた今回の降雹被害により、生産意欲を失うことなく来年に向けた取り組みができるよう、県として最大限の支援が求められています。

伊達市梁川町粟野地区の農家は、桃に加え野菜も被災、被害救済の制度も掛け金が高いので躊躇してしまうと言います。桃の一部だけ果樹共済に加入していたが、今回は被災した畑が違うため共済の補償もないと言います。収入保険は、制度が良くわからない部分もあり加入してこなかったと述べ、今回の被災を機に良く調べて加入を検討したいと話していました。

また、梁川町堰本地区の野菜農家も、出荷最盛期のほうれん草の葉に穴が開き、商品としては出せない状態となりました。農民連の産直カフェで扱うことにし、出荷を受けてもらうこと

になりました。少しでも収入につながる支援は農家にとっては大きな救いです。

県は、全県の深刻な被害の実相に鑑み、被災農家への適切な支援策に取り組むよう、以下の点を要望します。

#### 記

- 1、JAとも連携し、被害の全体像の適切な把握に努めること。
- 2、傷ついた桃の樹体と実の収穫までの保護、育成に関する技術指導を丁寧に行い、販売可能な実を最大確保できるよう支援すること。
- 3、まともな収穫が見込めなくてもやらざるを得ない消毒薬、肥料等への支援策を講じること。
- 4、ブドウは来年以降に影響が継続するため改植せざるを得ない。改植に対する補助、収穫可能になるまでの収入補填策を講じること。
- 5、今年の収入が全く見込めない農家も出ている。収入保険に加入していても保険金が支払われるのは来年6月以降となることから、生活費確保のため、つなぎ融資等の支援策を講じること。
- 6、商品価値が著しく低下した果実について、ほとんど収入にならないジュース等の加工用だけでなく、生食で販売する機会をつくり農家の収入確保を支援すること。
- 7、夏野菜に被害が出た農家もあり、傷付いた野菜でも販売可能なものは出荷したいとの希望に沿えるよう支援すること。
- 8、被災農家の中には、果樹共済や収入保険等被害救済施策に加入していない人も少なくない。掛け金が高いことが一番の要因となっていることから、各種共済等の農家負担軽減を国に求めること。収入保険制度の周知を図るとともに、白色申告でも加入できるよう制度の改善を国に求めること。

以上